

平成 27 年度 第 2 回若葉区区民対話会

<テーマ：若葉区における防犯の取り組みについて>

平成 28 年 1 月 29 日（金）
午後 2 時 00 分～3 時 40 分
若葉保健福祉センター 3 階 大会議室

○くらし安心室長

《国や市の犯罪発生状況について》

平成3年から5年のバブル崩壊により、雇用の抑制による失業者の増加など、地域治安の悪化が危ぶまれてきた。こうした中、刑法犯の認知件数は、平成8年から毎年増加し、14年にはピークに達して369万4千件となった。

このため、国は首相を長とし全閣僚を構成員とする「犯罪対策閣僚会議」を設置し、「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」を策定、様々な手立てがなされてきた結果、15年から11年連続して減少に転じて25年の刑法犯の認知件数は、191万7千となっている。

千葉市も国と同様に平成8年から増加傾向で、12年をピークに、以後は平成26年まで14年連続で減少している。しかしながら、平成25年の人口千人あたりの犯罪発生率でみると、千葉市は政令指定都市ではワースト5位であり、まだまだ高い水準にある。

犯罪がなく、「安全で安心して暮らせるまち千葉市の実現」を目指し、市は今年度から平成29年度までの3か年計画である「第3次 地域防犯計画」を策定している。

《計画に基づいた市の主な取り組み》

1 子どもたちを犯罪者から守る（教育委員会）

学校セーフティウォッチャー、こども110番のいえ、防犯ブザー

2 高齢者、女性、障害者などへの安全対策（地域安全課）

千葉市安全・安心メールでの情報提供、防犯講座や街頭キャンペーンの実施

3 防犯リーダーなどの人材育成（地域安全課）

防犯講座やパトロール隊交流会の実施、防犯アドバイザーの派遣

4 地域防犯ネットワークの推進（地域安全課）

警察、事業者、市など関係機関を構成員とする地域防犯連絡会の開催

《若葉区の防犯活動の状況》

・「防犯パトロール隊」（「自分たちのまちは自分たちで守る！」という自主防犯意識を持つ地域で結成されたパトロール隊）

登録団体数：平成25年度121団体、26年度120団体、27年度12月末時点125団体

・「防犯ウォーキング」（犬の散歩やジョギング、ウォーキングの際など都合のよい時間帯にパトロールしてもらおう気軽なボランティア活動）

登録者数：平成25年度2,191人、26年度2,042人、27年度12月末時点で2,097人

・「青色防犯パトロール隊」(着脱式の青色回転灯を装備した自動車(青パト)を用いて行われる防犯パトロール隊

若葉区登録団体数 8団体

・「多機能パトロール」区職員が、防犯、道路、公園などの安全、ごみの不法投棄の抑止などを目的に、地域内の生活道路等を計画的に巡回。不審者情報があった場合もあわせて巡回。※27年度不審者情報：23件(1月現在)

・防犯情報の提供

千葉県や千葉東警察署、千葉市防犯協会連合会などの関係機関等作成のチラシ、リーフレット等を区役所窓口で配付。

警察との連携により得た犯罪発生状況について、必要に応じて文書やメルマガで町内自治会宛て情報提供することで、注意喚起を促し、地域における防犯ネットワークの推進・強化を図る。

○千葉東警察署生活安全課長

《犯罪の発生状況について》 ※数値は暫定

県下では12年連続で犯罪発生件数が減少しており、全国的にも同じ傾向。

千葉東警察署管内の昨年の刑法犯の認知件数が1,597件

(昨年に比べてマイナス215件、マイナス11.9パーセントで4年連続減少)

その中で、増加している手口は侵入盗が192件、自販機狙いが25件。

侵入等の中でも忍び込み(家人が就寝中に泥棒に入る手口)が多くなっている。

一時期多かったひったくりについては、県警での取り組みや住民の方々の防犯意識の高まりの結果、現在では減少傾向にある。

振込め詐欺などの電話de詐欺や悪質商法については、被害者との接触が少ない分、捕まるリスクが少ないため、このような特殊詐欺の犯罪が増えている。

《防犯に関する千葉東警察署の取組み事項》

1 「犯罪の情勢に即した効果的な犯罪抑止対策の推進」

犯罪情報をリアルタイムに皆様にお届けすることで、予防活動と検挙の対策を講じる。具体的には毎週「東署事件だより」に管内の犯罪発生状況を記事にして配布しており、登録者にはメール配信もしている。

2 「関係機関・団体との連携等による犯罪抑止対策の推進」

管内62箇所のコンビニエンスストア経営者で構成される防犯協力会を発足。犯罪予防活動にコンビニエンスストアに協力してもらい、地域の方との情報共有をするなど管内で統一した取組みを行っている。

3 「防犯ネットワークの活性化と若者層によるボランティア活動の参加促進」

シニア世代を中心としたボランティアグループと学生ボランティアサークルとの交

流を広げ、防犯に関するチラシ配りやパトロールなどを企画し若者と一緒に進めていく。

4 「犯罪の起こりにくい環境の整備」

防犯灯の設置、防犯カメラの設置、不審者が出やすい場所の環境の整備など道路管理者等と協議しながら改善していく。

* * * * * < 意見交換 > * * * * *

○若葉区長

本題である意見交換に移ってまいりたいと思います。

意見交換を、二段階に分けてやっていきたいと思っています。最初は、皆様方ふだんお顔もご存じかとは思いますが、自己紹介を兼ねまして、各地域における防犯関係の活動状況や、活動の中での様々な課題、問題点等を、お一人2～3分という限られた時間になってしまいますが、ご説明いただきたいと思っています。その次に、そういう課題等を踏まえて、今後どういう取り組み、工夫等が考えられるのかお話しいただくという二段構えでやっていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、お名前と所属、特に防犯パトロール隊の方につきましては、隊の活動状況や、課題を中心にお願ひできればと思います。

○参加者 A

都賀の台自治会の A です。私ども、一丁目から四丁目までありまして、ちょうど国勢調査をやったばかりですから、正確な数字を大体つかんでいるのですが、一戸建てで1,250戸前後ございます。住人が大体3,100人ぐらい、あと防犯は、この自治会は発足して42年目ですけど、防犯も30年後にできたようで、防犯パトロールはこの2月で13年目を迎えます。

四丁目までありますけれども、それを6つの班に分けてまして、6つの班がそれぞれ独自に活動をしています。平均的に1班大体40人ぐらいのメンバーです。活動状況としましては、土日・祭日はしていないのですが、平日大体毎日10人ぐらいずつ集まって、夕方のパトロールを1時間ぐらいしているというのが実態でございます。

あと、早速悩みなのですが、なかなか隊員が増えないんです。私どもは毎月都賀の台だよりという小冊子を出しています。それにいろいろ宣伝をするのですがけれども、なかなか増えない。むしろ発足したときのほうが一番みんな熱が入ってまして多かったのですが、だんだん老化して、年とともに歩けないとか、あっち痛い、こっち痛いということで減ってまいりまして、今は増えないのが悩みの種です。

ただ、私どものところはまだ自分の好きな時間に自由に出られるのですが、ほかで見えていて問題なのがセーフティウォッチャーです。これはもう朝も定期的に決まって

いますので、このほうが地区としては大変だと思います。

ちょっと防犯から離れますけれども、都賀の台小学校というのは、実は私どものところ、子どもが 100 人しかいないのです。それで、四街道に近いところから 100 人集めまして 200 人なのですが、ありがたいことに先ほど生活安全課長さんからご説明いただきましたけど、年々事件が減っていて、特に都賀の台は毎年大体 10 件ぐらいです。去年も 10 件、おとしも 10 件でした。そういうことであそこは安全らしいという、いい話でありありがたいのですが、子どもさんを学区外から 200 人通わせていただいでまして、結果 400 人のうち地元わずか 100 人だけという、ちょっと変わった状況になっております。

いずれにしましても、とにかくパトロールの新しい人、若い人を入れようと思うのですが、皆さん働いていますし、夜でもお願いしますと言うんですけれども、なかなか、今の若い人、サラリーマンは我々のころと違ってかなりきついみたいですから、なかなか応援いただいていないのが悩みの種でございます。

6 班のうち共通して年 3 回、連絡会議をやっております。1 回目にはいつも生活安全課長さんにも出ていただいて、お話をいただいています。あと、ありがたいことに、私どもの自治会館の駐車場が広いものですから、月に二遍、移動交番をお願いしています。その一遍を合同パトロールということで皆で回っており、様々な安全上の問題をご指摘いただき、参考になっております。以上です。

○若葉区長

続いて、B さんお願いします。

○参加者 B

私、大宮台自治会環境整備防犯対策委員会の B と申しまして、書いてきたものを読ませいただきます。

大宮台自治会防犯活動について。大宮台自治会では地域の環境整備、防犯活動対策として、大宮台環境整備防犯活動委員会を設置し、犯罪のない大宮台を目指し、会員 25 名で積極的に活動を続けています。

活動状況と実施している対策は、1、平成 18 年に右記載の防犯看板を作成して、団地内の各道路の入り口の家をお願いをし、全地域で 200 枚取りつけ、犯罪の防止対策を行いました。その結果、空き巣、忍び込み、自動車、オートバイ、自転車の盗難は非常に少なくなったということです。

2、学校の夏休み期間と年末にパトロール隊を組織して、4 組に分かれ、団地内全地域をパトロールして防犯活動を実施しています。

3、防犯パトロール車を購入して、毎週 1 回、団地内全域に防犯の放送を呼びかけて

います。もちろんこの車は青色回転灯がついております。また運転する人はちゃんと警察からの証明書をいただいております。

4、大宮台自治会では、犯罪防止と安否確認のため、高齢者見守りネットワーク制度を設置して、毎朝、毎晩、隣近所の住民全員が見守り、朝になっても戸が開かない、夜になっても明かりがつかないなど、日ごろと様子がおかしい場合はすぐ自治会に連絡する。連絡が来たら自治会は現地に急行して、安否の確認をすることを制度として定めております。

なお、地元の新聞配達所を初め、牛乳配達所、電気・ガス・水道の検針業者、宅配業者と覚書を交わし、配達した新聞や牛乳が取られずたまっている、電気・ガス・水道の検針をしたが、日ごろと様子がおかしいと感じた場合や、宅急便の配達者が何回連絡しても留守の場合はすぐ自治会に連絡を取るということで決めており、防犯対策と安否確認を実施しています。

5、千葉県東警察署の犯罪報告によると、他の地域と比較して犯罪件数が少なく、年に数回もなく、大宮台の防犯活動の成果が見られます。さらに犯罪発生のない大宮台にし、住民が毎日安心して安全に暮らせるように努力を続けていくことにしています。

6、しかし、悩みがあります。大宮台は千葉市の中で飛び抜けて高齢化の進んだ団地で、高齢のためボランティア活動の参加者が少なくなり、今後、どうして住民が毎日安心して安全に暮らせるか、安全対策を継続していけるか、これが悩みの種であります。

こちらに印刷されている看板がどういうものか、実物を持ってきました。(防犯用の看板を示す)これがそうです。団地内に200枚取り付けました。

○若葉区長

合板ですか。ベニヤ板ですか。

○参加者B

プラスチックです。これで予算が20万かかったそうです。200枚で1枚1,000円ですね。

○若葉区長

ありがとうございます。

では、続いてCさん、お願いします。

○参加者C

千城台東町自治会のCでございます。

東町自治会もよその自治会さんと同じようなことをやっております、その二つの例だけをご説明させていただきます。一つは夜間防犯パトロールというのをやっております。これは毎月第 2、第 4 の土曜日、今は冬ですから 6 時から、夏は少し暗くなる 7 時からというふうにはずらして実施しております。

私のところの自治会は四丁目までありまして、それを本当は 4 ブロックでいいんですが、大きい町内は 2 ブロックに分かれまして、実質 6 ブロックを自治会の保安全管理部が主体となり、ボランティアと一緒に月 2 回回っています。今は寒いせいもありまして参加される方がちょっと少ないのですが、それでも大体 1 回で 50~60 名ですね。年間通して数えますと、約 800 人から 900 人という人が集まってまいります。

もう一つは、防犯パトロールの青色パトロールということで、軽自動車の前にスピーカーと青色回転灯をつけまして、これは大体月に 6 回ぐらい回っています。ですから、毎週 1 回から 2 回ということでしょうか。子どもたちが学校から帰る時間の 3 時から 4 時ぐらいにスタートして、町内を全部回ります。ここは 1,600 人の一軒家ですので、広域になっておりまして、大体 1 回回ると 12 キロぐらいございます。それを 1 時間半から 2 時間ぐらいかけて回っています。

基本的にパトロールではその 2 つをやっておりますけれども、防犯ということになりますと、これ以外にのぼり旗ですね。これは各公園及び個人の家にもつけさせていただいておりますけれども、20 本ぐらいでしょうかね。のぼり旗を配布してつけております。風が吹くとすぐ傷むのですが、風が吹くたびに直すということをやっております、これが破れていますと防犯の価値がないんですね。「なんだ、いい加減だな」ということになりますので、常に新しく見えるように、きれいにしておかなければいけないので、これがちょっと大変でございます。

それから、防犯ステッカーという、小さい A4 ぐらいの大きさですけれども、それを作っております、ほとんどの家庭に配っております。あるいは自転車にこれをつけて回っております、パトロールではないですけど、これも一つの防犯の仕事ではないかなと。そういうことをやっております。大体、今やっていることはそういうことです。

あと意見とかいろいろあると思うんです。感じたことは別のときに話をしたいと思います。

○若葉区長

課題とか問題とかは。

○参加者 C

それは後からにしていいですか。

ただ、ここでちょっとお礼を言っておきたいのですが、防犯パトロールの車で回る場合に、講習の教科書が要るわけです。これを一応もらっているのですが、警察のほうで集会を大体2年に1回しかやらないんですね。役員は1年ごとにかわりますので、なかなかそれがタイミングが合わなかったのですが、そういうことを言いましたら、東警察署の方がわざわざ自治会においでいただきまして、特別に東町のための講習会を開いていただきました。そういうことで今はうまく回っています。いろいろありがとうございます。

○若葉区長

続いて、Dさん、お願いします。

○参加者D

みつわ台北小学校PTAのDと申します。PTAの役員の中に環境部というものがございまして、そちらが12名で構成されております。その環境部の方が主催でパトロールを行っているのですが、児童の下校の際に、児童と一緒に帰っていただいて、危険箇所を児童と一緒にチェックしながら帰宅するという形のパトロールを行っております。

課題としましては、やはり保護者の皆様の参加が少ないということで、役員の方以外にも保護者の皆様に、パトロールがこの日にありますということをお伝えしているのですが、やはり保護者の皆様の参加が少ないというのが課題になっております。

一応、学校の会議、役員の方たちの会議の中や学校だよりのお手紙の中に、募集していますという内容や、あとはパトロールの時間外でも、例えば犬の散歩ですとか、あとは登校中、ちょっと家の前を掃き掃除しながら見守っていただくとか、そういうことでもいいのというお願いのお話をさせていただきました。

以上です。

○若葉区長

ありがとうございます。

では、続いてEさん、お願いします。

○参加者E

若葉区老人クラブ連合会のEでございます。実は、きょう会長が出席ということでございましたが、ちょっと都合がありまして、代理でまいりました。

老人クラブのほうは、今、若葉区で1,000人ちょっとで活動しております。年々減少しているのが悩みの種です。

その活動としては、まず会員の健康管理、それと今はやりの——はやりといったらおかしいですが、オレオレ詐欺の状況など、この問題があるのですが、オレオレ詐欺など、できたらもうちょっと警察の方から情報が月々でもいろいろなことを連絡していただいたらいいのではないかなと、現在私は思っております。

健康づくりのほうは、グラウンドゴルフや、パークゴルフをやっています、案外、健康管理のほうはうまくいっているのではないかなという考えを持っております。

ちなみに、私個人としましては、桜木小学校のセーフティウォッチャーを、登校時間、7時半ごろから8時ごろまで行っています。その登校時の道路に車が進入してくる。それもちょうと警察の方をお願いしたい。標識が立っているのですが、標識が高くてなかなか見えない。現在、高いところにあって、進入してきた車を私たちが一々注意しながら見守っております。現在のところ、安全に子どもたちは学校に通学しております。以上です。

○若葉区長

ありがとうございます。

では、続いてこの後、地区連の方のお話になりますけれども、かなり幅広の話が想定されますので、ご自分のところの自治会の活動でも構いませんし、その辺は適宜お願いしたいと思います。

では、Lさんお願いします。

○参加者L

自分の自治会でもよその自治会さんと同じようにパトロールなど大体似通ったことをやっています。

○若葉区長

続いてKさん、お願いできますか。

○参加者K

第32地区連のKです。若松中学校区でございます。うちの地区のところというと、約64%、65%ぐらいの自治会が防犯組織をつくられているということですが、多分つくられていないところは、かなり小さな、1棟、2棟の自治会もあるんです。それから本当に10数軒という自治会。ちなみにうちもそうです。なかなか腰が重くなるんですね。ようやく昨年、自主防災組織を立ち上げてということなのですが、防犯まではなかなかいかないということです。

ただ、数年前に車とかトラックが朝起きたら盗まれているという事件や、昨年です

と不審者のことで、防犯組織がないものですから私のところに連絡が3件ありました。そのときは、すぐ東署に連絡しなさいと指示を出しました。

今、皆さん方のお話を聞いていて、腰が重いなどばかり思っていられないので、できることは何かという視点で取り組む必要があるのかなど。

今日いただいた資料では、例えば防犯ウォーキング、犬の散歩、ジョギング、あるいは散歩ですね、している方もいらっしゃるので、ぜひそういう方たちの自主性をいただいて、登録もしていただいてご協力いただくと。できることから始めていかないと、なかなか重い課題だなというのが率直に言って私どもの自治会でいうとあります。今日は大変貴重なお話も聞けるので、ありがとうございます。

○若葉区長

続いて、Jさん、お願いします。

○参加者 J

26地区連協のJです。先ほど私の地元の大宮台はBさんのほうから報告がありました。あと、大宮台で東署の方からお話ありましたように、東署事件だよりをもう12、13年前ぐらいから送っていただいています、それを大宮台の中では回覧などに入れたり、いろんな自治会の役員会等の中でも配布をしたりと活用させていただいています。非常に助かっております。

あとは、ほかの26地区ということで、北大宮台なり、あるいはいずみ台ローズタウンというところなんかでも、私のところはその3つは大体100人単位であるのですが、北大宮台で600ぐらい、ローズタウンで400台、それからあとはもう60名以下というようなところが少ないところの自治会ですが、一応パトロール等については全部のところで行っているというふうに報告を受けております。

○若葉区長

続いて、Iさん、お願いします。

○参加者 I

24地区連のIでございます。私のところは千城台西中学校区になるのですが、自治会数が36でパトロール隊数が31とすごい高率で、皆さん頑張っているのかなということを思います。

私が住んでいるのは千城台東のグリーンハイツというところですが、その自治会でも週1回ぐらいは周囲のパトロールを大分前からやっているということは知っています。あとほかの自治会については、地区連の役員をやって4年目になりますが、先

ほど話が出た東町自治会さんとか西町とか、大きい自治会さんのパトロールについては、前から話だけは聞いているので、大変だなと思いながら聞いていたのですが、ほかの地域の方々も、いろんな課題を抱えながらやっているなというのが今日わかったところでございます。

この課題については、次の議題で皆さんから出るのかなと。私のほうからもちよつと質問、あるいは確認したいことがありますので、そちらでまた言わせてもらいたいと思います。

○若葉区長

何か地域で課題・問題点ということで、困っていることでも何かお聞きであれば、その辺は今この段階で言っていただいても構いません。

○参加者 I

私のところだけではなく、これは千葉市全体にかかわることだと思うのですが、防犯にしろ、各自治会の役員にしろ、あと、去年千葉市でやった「市民 100 人大ワークショップ」というのがありましたが、それにしろ、何にしても現役世代の人たちをどういうふうにして取り込んでいくかというのが、今はどこに行っても問題だと思うんですよね。現役世代がどれだけ参加することがあるか、あるいは参加できるものがあるか、そこら辺をいろんなところで検討していかないと、これからは何もできなくなってしまうのではないかというのが私の考えなんです。

○若葉区長

ありがとうございます。

では、続いてHさん、お願いします。

○参加者 H

更科中学校区のHでございます。農村地帯なので、防犯活動という面では余りやっていないのですが、青色防犯パトロール隊が一番実現しやすいかなと思いました。どうしても家と家が離れているので、これが一番やりやすいのかなと思います。

課題としては、先ほど I さんが言ったように、やはり現役世代の人がやりたい、やろうかなというふうに見えるような動機づけといいますか、私たち、自分のまちは自分で守らなくちゃいけないという気持ちを起こしてほしい、そのためにどうすればいいのかを今考えています。

○若葉区長

ありがとうございます。

続いて、Gさん、お願いします。

○参加者G

第17地区、白井中学校区のGです。

私どもの連協会は自治会が18あるんです。一番小さい自治会は11戸で1自治会、それから、18自治会の中で一番大きいところは、高根グリーンタウンといいまして、500戸以上。11戸から500戸以上の18の自治会。しかも、この18の自治会の中には、先ほど言った500戸以上の自治会の高根グリーンタウンを筆頭に、いわゆる団地といわれる自治会が4つあります。面積はなんと20平方キロメートル。ぴんとこないでしょうけど、20平方キロメートルというと、東西で10キロ、南北で2キロ、それをちょっと考えてください。この面積はなんと6区のうちの稲毛区、美浜区と同じ面積なんです。

先ほどの500戸を超える自治会があるかと思うと11戸もありますので、17地区連協の戸数というのは2,000戸強なんです。この面積で2,000戸ですので、いかに過疎地域か、先ほどHさんから話があったけれども、何をやるにしても大変難しい。一つは自治会に小さいところ、大きいところがあること。面積が非常に大きいこと。その18のうち4つが団地ということなんです。

そんなことで、いろいろやることはたくさんあるんですけども、実は今回、私どもも行政の指導で、第3期若葉区地域福祉計画というものを昨年つくりまして、平成27年度から29年度、3か年計画というものがあるんです。私どもはこの中に9つの重点項目を挙げまして、その9つのうち、4つがなんと自治会が主体になってやりましょうということで、そのうちの1つが今日の話題になっております防犯パトロール、防犯活動をしましょうということなんです。

27年度、私どもはこの4つの項目、1つはきょうの話題の防犯、もう1つは防災ですね。それから防災の中でも避難所運営委員会をつくりましょう。それから高齢化社会で最も今必要だということで、全国的に皆さん方も動いています、見守り活動をやりましょうと。見守りの次は支え合いをやりましょうと。全部この4つが大変な課題なんです。

18の自治会にいろんな問題点はありますが、今、1自治会ずつでもやってくださいということでやっています。18の自治会のうち、実は私が調べまして、うちでパトロール隊を設けていますよというところが4自治会ありました。計画の中では現在4自治会ですので、今年度、27年度で1自治会、次の年にもう1つ、次の年にもう1つと、3か年で1自治会ずつ増やしていきましょとやって、実はこの会議の始まる

前にくらし安心室長さんに、「我が 17 地区のパトロール隊をつくっているところは幾つあるんでしょうか」と聞いたら、6 つあるとのことなんです。恐らく、具体的には名前を挙げられませんが、2 つの自治会は名前だけあって何もやっていないから、自治会長でさえやっていることを知らない。そういう実態ですので、3 か年の間に 1 自治会ずつ増やしていくというのも、数的には 1 団体ですので可能な数字かと思いますが、自治会の代表者が住民を巻き込んでこういったことをやるのは、口で言うのは易しいですが、実際に動こうとすると、大変難しいと思っているんです。

パトロールの副隊長さん、隊長さんがいらしていますので、ぜひ今日は参考に伺って、私どものこの 17 地区の連協会議に持ち帰って、自治会の皆さん方の理解を得て、1 年度に 1 団体でも増やしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○若葉区長

ありがとうございます。

では、最後に F さん、お願いします。

○参加者 F

私のほうは、加曽利中学校区です。今言われたとおり、自治会の存在が非常にバラバラです。加曽利中学校というのは古い中学校で、昔、第 1 中と言ったから第 1 地区連ということになったんです。非常に古いところですよ。ですけども、現在住んでいるのは団地で、後から入ってきたところも多いんです。500 所帯のところもあれば、400 所帯もあれば、いろいろあるんです。かと思えば、市営住宅あり、県営住宅あり。それから、白井、更科さんのほうで今お話しになっているような千城地区などは、小学校で生徒が 50 人ぐらいしかいないんです。それから、坂月小学校もやはり 40 人から 50 人しかいない。千葉市の中心部に近い割には、そういうかつての農村地帯が存在をしている、こういうところですよ。

ですから、この 2 人の方はよくわかるんです。農村地域のところにはパトロール隊はありません。家がまばらにあります。そのかわり、その農家の人たちは個人のことをよく知っています。全部詳しくわかっていますから、都会とは全然状況が違うので、情報がつまびらかです。そして顔も知っていますから、不審者が歩いていけばすぐわかるんです。普通のまちで、例えば 500 所帯が固まっているところで、自分の町内の人か、よその町内の人か、識別できませんけれども、こういうところの人たちは全部わかっちゃうんです。それぐらいですから、一律一体に話ができないなというふうには考えております。

私がお話ししたいのは、うちのほうの町内で、加曽利新和自治会というのがありま

して、防犯カメラを何台かつけたわけです。20 万か 30 万しましたけれども、それを工面してつくりました。すぐに空き巣（侵入盗）が入ったんですが、防犯カメラにばっちり映ってしまっていて、東署の方をお願いをして、その事件は解決したようです。2、3 年前の話ですけど。

防犯カメラが非常に安くなったので、地域全域につけましようよという話が私の地域の中でありました。防犯カメラがついているということがわかれば抑止力になるのではないかということです。それを今ちょっと研究してみようかなと思っております。本当に安いのであれば、私、防犯協会の会長もやっていますので、皆さんに、こういう状況だからもっと防犯カメラをつけたらどうでしょうかと、そういう運動展開もしなければならぬのかなというふうにも考えております。

ちなみに、ずっとうちの地域は侵入盗なんかはなかったのですが、去年、実は 1 日に 11 件入られたんです。それは朝の 3 時ごろから 5 時ごろまでにかけてです。ですから、1 人の人間ではやれないんじゃないかなと。こちらに専門家がいますから後でよく教えてもらいたいと思いますが、恐らくグループで入ってきてやったのではないかと思います。そのような状況ですから、まさか朝方にパトロール隊を組んだり、朝方までパトロールするというのは難しいので、やはりその辺に関しては、警察をお願いをするしかないのかなというふうにも考えております。

○若葉区長

ありがとうございました。

では、一通り現状、防犯パトロール隊の方はどういう取り組み、どういう課題があるか、また各地区連の皆様方には自分たちのところの活動状況も含めて、地域全体の状況ということでお聞きしました。この後ですが、本題ということで、いわゆる地域防犯活動において、今は担い手が高齢化してなかなか人が集まらないだとか、若い世代が入ってこないだとか、そういう担い手の問題がかなりあったかと思えます。

また、地域の実情として、農村部などでは、防犯の意識といいますか、余り危険性を感じていない、そういうところもあったりということで、いろいろ課題があろうかと思えます。

そういう課題を踏まえて、地域における防犯の取り組み、今、F さんのほうから防犯カメラなんかはかなり有効だよという話もありました。そういうことも含めて、ざっくばらんに、的を絞らずに、こんな取り組みはどうだろうかというご意見やご提案がありましたら、どなたかお願いできればと思います。

ジャンルは限らず、いわゆる地域防犯の取り組みで何かございますか。

○参加者B

大宮台自治会のBと申します。毎日、新聞、テレビで出ているように、振り込め詐欺が減らない。それは何故かという、犯罪なのに刑が軽いと思うんだね。もっと厳しくしなきゃだめだと思います。今日もテレビで言っていたけれども、振り込め詐欺ということで、年寄りをスーパーあたりに連れて行って、振り込ませるわけだね。電話連絡して。今はやりで携帯を持っているから、指示通りやれという。相手の場所はわからないんですか。

○参加者F

逆探知するということ？

○参加者B

そうです。それができれば、細かく細かく最後まで突っ込んで相手を探せば、やっぱりこれはまずいかということで減ってくるんじゃないかなと思うんだけど。

○若葉区長

防犯ということでは、広い意味では当然振り込め詐欺も大事な扱いですね。ではIさん、お願いします。

○参加者I

24地区連のIでございます。若葉区の資料の5ページの主な取り組みの1番に、子どもたちを犯罪者から守るというところで、教育委員会絡みなんですけど、「学校セーフティウォッチャー、こども110番のいえ、防犯ブザー」ここなんですけれども、ちょうど今、私、24地区連の中で、小学校の統廃合問題をやっているんです。各学校が一番気にしているのが、この学校セーフティウォッチャーなんです。どこの学校に統合したとしても、セーフティウォッチャーは必ず保証してくれと、皆さん言うんです。でも、セーフティウォッチャーというのは、教育委員会が見つけてくるわけではないですし、現状は各自治会にお願いしているところですよ。

実際に学校へ行っている子どもさんの親御さんというのは、働き盛りなので、自分の子どもが学校に通っていても、セーフティウォッチャーはできないと言うんですよ。それが現状です。だから、セーフティウォッチャーが子どもたちを守るために必要なのはわかるのですが、各自治会も高齢化が進んでおりますし、この辺の問題が今ちょうど私、学校統合問題で一番悩んでいるところです。

あと、「こども110番のいえ」ですが、これも何軒かお願いしているところです。逆にこれをお願いに行くと、もしも子どもが刃物なんかを持った人間に追いかけて、

「こども 110 番のいえ」という看板の家に飛び込んで、その刃物を持った男にその家の人々が危害を加えられたら誰が責任を取るんだというような質問を受けてしまうんですけど、東警察署さんのほうでは、「こども 110 番のいえ」についてはどう考えますか。

○千葉東警察署生活安全課長

確かに非常にそういった不安の面もあるかもしれませんが。全くないとも言えないと思うんですね。通常の刃物を持って追いかけられたというような形になりますと、正直な話、どうしようもないというか、それはそういうリスクがあることは現実あると思います。ただ、例えば簡単に声かけだとか、ちょっとつきまといだとかということであれば、やはりそういうものは大人のいないところで子どもにつきまったりということなので、家に逃げ込んでまで行くというのは、余り考えにくいところなのかなとは思っています。

○若葉区長

では、今、I さんからもありましたけど、前段でも、防犯パトロール隊も含めて、セーフティウォッチャーも含めて、いわゆる担い手不足ということが挙げられております。非常に難しい課題だとは思いますが、人間がいない、人口がいないわけではなくて、やはり高齢化とかで、一見働き手が少ないなというイメージはあるのかもしれない。でも、私はそうは思わないんですね。やっぱり元気な高齢者の方というのは結構いるわけであって、いかにそういう人たちを引っ張り出すか。そこら辺が課題かなと私は区長をやっていると思うんです。担い手を確保する取り組みについて、例えばこんなことでもいいんじゃないかというのがあれば。

では、G さん、お願いします。

○参加者 G

私、先ほど白井中学校区と言いましたけれども、中学校が 1 校、小学校が 1 校、それで 18 自治会なんです。ですから、学校が小学校 1 つ、中学校 1 つというのはメリットなんです。私どもは敬老会を 17 地区で 1 カ所、全 18 自治会が集まってやりましょうと言って、今 18 のうち 17 が一斉に白井地区の敬老会を白井小学校でやるわけです。どうしても自治会の方々は白井小学校、学校と親しくなります。

私、かねて民生委員というのをやっているのですが、民生委員のあとに児童委員というのが自動的に今法的について回るんです。そうしますと、児童委員ですので、学校と色々な話があります。3 年ほど前に民生委員をやっていたときに、学校側からセーフティウォッチャーが高齢化で少なくなっているという悩みを聞かされたんです。そのときに、よし、ここだなと思って、民生委員は児童委員を兼ねていますから、児

童委員という立場で民生委員がセーフティウォッチャーになれないかどうか、会議で決めてみましようと言いまして、会を開きましたら、皆さん全員がなるんならいいだろうと。白井地区の民生委員が一斉に児童委員ということで入りましようよということで、教頭先生を窓口に学校側と話して、全白井地区の民生児童委員が今でもセーフティウォッチャーを続けているんです。

そのかわり、それぞれの民生児童委員にやり方は任せましよう。私は時間があるから毎日立つよ、私は火曜日の日を民生委員の日、1カ月のうち4回ですよ。ですから、火曜日だけは民生委員の仕事を割り切るということで、高齢者を訪ねたり、セーフティウォッチャーも週1回だけバス停に立つんです。126号を走るバス停の車の運転手さんとは大分親しくなれまして、片手でこうやってとまってくれという合図をやれば、ちゃんと児童が吹っ飛んできても止まってくれます。

いろんな民生児童委員がいますので、学校側と組んでやったらどうかということで、これは一つの成功事例ではないかなと思ってご披露させていただきます。

○若葉区長

わかりました。民生委員さんが兼務をして活動していくということですね。

防犯パトロール隊等で、担い手の確保という面で主としてお考えいただければわかりやすいかなと思いますけど、そういう観点からの何か工夫とかがあれば。

ではFさん、よろしいですか。

○参加者F

すぐ二言目には現役の若者が出てこない、出てこない、合言葉みたいにどこへ行っても言うんです。でも、無理です。仕事をして、会社に行って、いろんなことが頭の中にあるのに、セーフティウォッチャーで子どもの通学時間帯に学校の門のそばに立っているといたって、そんなの無理な話で、それが困る、困ると騒いでも、これは解決はしないと思います。

先ほど言ったとおり、65歳以上を過ぎた大勢の人がいますから、健康な人もたくさんいますから、むしろその人たちが出てくれば、セーフティウォッチャーは間に合っちゃいます。

Eさん、桜木小学校区は、ほとんどみんな出ているよね。

○参加者E

同学校区の老人クラブの会員はほとんどがやっています。

○参加者 F

ほとんど皆さん、この E さんの年齢ぐらいの人たちがいっぱい出てきてやっています。別に若者でなくても見守りですから、悪い人と格闘するわけではありませんから、若い人の必要はないというふうに私たちは思っています。

子どもは、毎回同じ人が顔を出しているとちゃんと挨拶するようになります。皆さんのほうも挨拶されるとかわいくなって、少しぐらいぐあいが悪くたって出ていっちゃうんですね。そういう状況ですから、余り若者がセーフティウォッチャーに出てこないから困った困ったって騒がないで、現在いる高齢者をどんなにうまく引き出すかということのほうの方が大切だと思います。

○若葉区長

貴重なご意見をありがとうございました。

○参加者 E

その件ですが、登校時間帯に、先ほど言った標識を無視して子どもの通学路に入ってくる車がある。中には私が見て、「いや、ここはだめだから向こうへ回れ」ということを注意するんだけど、中には変な人がやってくるから、これはちょっときついなど。しょうがない、それは素通りさせちゃうんだけどね。一時、桜木小の信金から中へ入ってくるところは、警察の方が 3、4 人立ってくれたんだがあのときはいいなと思っていて。このごろは人数が少ないかどうかはわからないけど、ここ 2、3 年立ってもらっていない。だけど、それなりにこの標識はだめだからと注意をしていたら、このところ随分少なくなってきました。

○若葉区長

わかりました。ありがとうございます。

ではもう一つ、防犯パトロール隊自体を増やす工夫についてです。小さい自治会など、意識、危機感がまだ薄いということが原因でもしかしてできないのかもしれませんが、もしもそうだとした場合に、こうやったら意識を高められるのではないかなど、そんなお考えがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

○参加者 J

私どものところに、いずみ台ローズタウンというところがありまして、そこについては、京葉国際ゴルフ場の間を抜けて大宮台小、大宮中学校に行かれるんです。そこは高齢者、もう職を持っていらっしやらない方々が、通学の見守りをやっぴらっしやいます。あそこだけは本当に感心だなと思って、私どものところもそのぐらいみんな

なやってくれないかなと思うんですが、元気な人は遊んだり趣味なんかは一生懸命やってくれるんですけど、なかなかそういうのはやってくれない。

ところが、いずみ台ローズタウンは小学校、中学校の送り迎えを、寂しいところを通りますので、本当にあそこ危ないなと私どもも思っているんですけど、ゴルフ場の間を抜けていく間は、15分ぐらい、子どもの足で20分ぐらいはかかるんじゃないですかね。それでもやはり父兄の人とかがボランティアで、そういう形でやっていらっしゃるところがあるということだけ、一応報告しておきたいと思います。

○若葉区長

それは自治会活動というよりは、いわゆる本当に自主的な活動ですか。

○参加者 J

学校のPTAとか一緒になった中で、孫が通うとか、あるいは隣の子どもが通うからと、そういう形で自主的に皆さんやっていらっしゃいます。あそこはなかなか感心です。

○若葉区長

では、Cさん。

○参加者 C

ちょっと変な質問をするみたいですが、今、ここで言われるのは区民対話会ということになっていて、どちらかという自治会のあるところだけしか出てきていないですね。要するに、自治会の方々が区民を代表して出ているんですけど、区民というのは、自治会に入っていない人もたくさんいるんだということも考えたら、今の防犯パトロールなんかは、自治会の中でやっていても、自治会員の人たちに対するパトロールをやりましょうとか、いろんなことは割とうまくいく。高齢者が増えるとか、いろんなことを言いながらでもうまくいくんですけども、要は、自治会に入っていない人が一番こういうのに興味を持たないんです。そういう人が一番問題なのではないかと。防犯なんかについても。その辺をどう考えていくかというのは、やはり一つの側面として考える必要があるのではないかなと思います。

今ここにいらっしゃる自治会の方、あるいは皆さん自治会ですけども、自治会に入っていない市民の方が今どれぐらいいるんだといたら、場合によれば30%を超しているのではないかなと思いますね。そうすると、防犯対策の30%の人はほとんど関係していないんです。70%の人を相手にいろんなことを考えるよりも、そちらは大体もういい。いいと言ったらおかしいですけど、ちゃんとしていますねと。一番防犯に

対して興味、あるいは啓蒙してもらわなければいけないのは 30%の人ですという見方もあるのではないかと考えたら、いろんな防犯対策にしても、あるいはいろんな自治会の運動にしても、ちょっとその辺がネックになっているような気がするんですよ。

○若葉区長

わかりました。常に我々、区も、自治会もそうですけれども、高齢化していくからといって、高齢者のほうに目がいくんですよ、どうしても。でも、実際は若い人が興味を持つような、いろんな対策にしても自治会の運動にしても考えないといけない。今の 30%の人というのは、ほとんど若手なんだと思います。

自治会にどれだけの人が関心をもっていろいろ取り組んでいくかというのは、本当にまちづくりにおける根幹の事項なんです。何をやるにしても、そこが大事なところだと思います。

今、たしか若葉区は 65%ぐらいの自治会加入率になっています。それで増やさなければいかんということで、当然いろいろ頭は絞っているのですけれども、なかなか有効策というのがありませんで、手っ取り早いところは、よくいうマンション等、集合住宅で入っていないところは、そこに自治会を結成しましょうよと、そういう働きかけをしているところですね。

お答えにならないかもしれませんが、その根幹にかかわる加入率は、若い人は確かなかなか意識が低い、加入しないというのはすべからく言えることであって、それができてしまえば、全て地域の課題は解決してしまうかなと思うわけであって、そこら辺でいろいろお知恵を拝借するためにも、こういう対話会ということでお願いしているところです。

実は 2 回前ですかね、町内自治会の活性化ということをテーマにやらせてもらいました。そのときにも、どうやったら増えていくのだろうということがいろいろありました。そこでいただいた意見では、会長さんを筆頭に、入っていないアパートの人とか、新しく入ってきた人たちに働きかけるのがやはり結構有効ではないかとか、そういうありがたいお言葉とかもいただきました。

○参加者 C

うちの自治会に入っていない人はアパートの人なんですよ。一軒家はそんなことは余りないんですけどね。

○若葉区長

では、ほかに何かあればお願いします。

○参加者 F

今の問題にもかかわりますけど、何割が自治会に入らないかはわかりませんが、入らないことの一番の理由は、賃貸住宅に入っている方が圧倒的に入らないんです。自分で家を構えて、自分でいる人たちで入らないという人は、地域に余りいないんですね。うちの地域だったら、ほとんど全員とっていいぐらい入っていますよ。入っていないのは個人のアパートです。そのアパートの人たちは年中人が入れかわっていますから、こちらも顔さえ把握していません。どの人がどのアパートに住んでいるかも把握していません。

そういうことから言うと、犯罪ともそのことはリンクしてくると思うんです。かといって、アパートを入れるなど、アパートの人間はみんな個人の家を持つと、そういうことを法で定めるわけにもいきませんので、だから、そのことはちょっと難しいのかなというふうに考えていますね。

アパートに一軒一軒訪ねて行って、自治会に入りませんかといっても、入るとするのは、10人いたら1人や2人はいるかもしれませんが、そんなにはいないと思うんですよね。だから、それはちょっと難しいのかなという気がしますね。

○若葉区長

ありがとうございます。

○参加者 C

今、Fさんが言われましたように、そのアパートなんです。今、警察の方にもお願いしたいのは、イコールとは言いませんけれども、そういうところに不審者が多いということになるんです。ですよ、大体。居場所がはっきりしている人は不審者にならない。その辺のところを一緒になって考えるときに、そういう人たちがどれぐらいおるかというのを考えていないと、おるところがわかっている人に余りやってもしょうがないといったらちょっと言い過ぎですけども、そういうところがあります。

○千葉東警察署生活安全課長

ちょっと一言だけ。確かにそこが根幹でありまして、自主防犯団体をつくりましょうというのは、昔であれば、隣組の輪の中に入っている人全員がいて、当然、「こういうことをやったらみっともない」「お前どうなの？」というふうな輪の中で収まり切れたところが、だんだんその輪が乱れてきて、きずながなくなってきて、こういった形で犯罪が非常に多くなっている。じゃあもう一回見直そうよということで、身近なものから集まれる人でというのが今のこの状況なんですよ。

ですから、振り込め詐欺対策の関係もそうですけれども、こういった輪に入ってい

る人たちは、みんな、先ほどの話ではないですけど、電話の内容からして、こんな引っかかるわけがないと言うんですよね。引っかかる人というのは、大体こういった輪の中に入っていない人が被害に遭うし、犯罪を犯す人も現実的にはあると思うんですよね。

輪の中に入っていない人を一人でも多く取り込むためにはどうするのか、それも一つの課題でもあります。そういった活動をしている地域の人たちが、パトロールのときに声かけをすとか、キャンペーンでチラシを配るだとか、あるいはもっと小さな子どもの世代の、小学生の父親、母親を取り込むときに、自治会で子どもたち向けのイベントをやって、自治会に入ればこういったメリットがあるからどうですかとって持っていくということをやっていきたいところですよ。

私、個人的にはそう思います。確かにそこが問題というか、根幹にはなってくるんですよ。

○若葉区長

Kさん、お願いします。

○参加者K

うちも、先ほど言いましたように防犯組織はないんですけども、もう少し突き詰めていくと、どんな自治会をつくっていくかということになっていくのではないかなと思うんですよ。

自治会の一つの単位は班とか組とかということだと思うのですが、そのところのコミュニケーションも含めて、しっかりと、どんな組織をつくっていくのかなということと、また魅力ある自治会活動というのはどんなことなのかなという、多くの住民が参加できるような、そういう自治会にどうしていくのかということが、自治会としては大事なのかなというふうに、先ほど来のお話を聞いていて思いました。その上で、防犯組織の問題とか、コミュニティづくりの問題とか、考えていく必要があるのかなという感じを強くしましたので、発言しておきたいと思います。

○若葉区長

ありがとうございます。では、最後に千葉東警察署生活安全課長さん、よろしいですか。

○千葉東警察署生活安全課長

今、警察はどうあるべきかというところで、活性化だとか、防犯パトロール隊の発足だとかということで、地域の方々の意見をお伺いしました。

実際に地域でパトロールをやる際、警察にも予定表をいただいているとは思いますが、生活安全課のほうが防犯の窓口になっていますので、今週、今月、こういうふうな形でやりますとか、集合場所はここですよというものをどんどん上げてください。

それによって私どものほうで、交番単位の地域のおまわりさんにその時間帯を知らせて、事件だとか事故がなければちょっと顔を出して、最近こういう犯罪が発生していますよというような形で、どんどん制服のおまわりさんを出していきます。皆さん、会の中でもなかなか隊をまとめるのが大変だと思います。そういった意識を高めるためのものは協力していきたいと思います。場合によっては防犯パトロール隊をつくりたいとか、説明したいというときには、うちの係の者を行かせて、我々も働きかけには協力していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○若葉区長

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、対話会を終わりにしたいと思います。

今日いただいたいろいろなご意見については、これからいろいろな場面で参考にさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

では、今後ともよろしく申し上げます。